



みちくさ

2017. 2. 23 No. 41

水栽培のヒアシンス



昔、亡くなった父が、この時期によく水栽培の花を咲かせていたのを思い出しました。花の少ない時期ですから、室内に水栽培一つあるだけで、彩りを添えてくれます。

毎年ではないですが、11月頃にホームセンターで球根を売り出しているのに出くわすと、今年はやってみようかなと、球根を買ってきます。今年は紫のヒアシンスにしました。写真のようにちょうど花を咲かせ始めていて、近づくともいわずよい匂いがします。

ところで、「水栽培をした球根は、次の年は使えないよ」とかみさんに言われました。普通、地植えした球根は、次の年も同じところで花を咲かせてくれます。それが水栽培だと駄目だということです。

いろいろ調べてみますと、これはきちんと科学的な根拠がありました。水栽培の場合、基本的に水と光だけで育ちます。そのため、球根に予め蓄えられていた栄養分は、花を咲かせるのに全部使われてしまい、蓄えがなくなってしまうのだそうです。地植えの場合には、根から様々な栄養分を吸収できるので、花を咲かせるのに加え、次の年の分の栄養も蓄えられるということです。

ということは、根から水の他に栄養分を補給してやれば、球根は次の年も花をつけられるということになります。液体肥料を薄めて入れてみようと思います。既に花が咲いていて、もう時期は遅いかも知れませんが、チャレンジしてみたいと思います。



ブラスバンドの卒業コンサート

ブラスの卒コンが先週金曜日に終了しました。お休みの日にもかかわらず、保護者の皆様だけではなく、地域の皆様にもご参加いただきました。今年度の活動が一段落したことになります。

五橋中学校も参加しての合同演奏会もありました。中学生は、さすがに音の厚みが違っているというか、肺活量も多いから当たり前なのだろうけれど、小学生との違いをまざまざと見せつけられました。

た。

今回、ゲストとして、岩切小の校長先生でご退職された清水眞哉先生をお招きし、ブラス設立当時のお話をご紹介いただきました。清水先生は教諭時代と教頭時代に片平にお勤めになった先生で、私も以前勤めた時にはお世話になりました。

100周年記念式典を行うにあたり、何か花を添えるものが欲しいということで、ブラスバンドを設立することになったそうです。仙台市内ではそれまで学校でのブラスバンドはなく、片平が一番だったようです。設立当時は、交通安全のパレードなどにも呼ばれて、子どもたちは活躍をしたということでした。

今年度のブラスバンドは、残念ながら県大会までは進むことができませんでした。ただ、毎日一生懸命頑張って練習していたことを認められ、神戸で行われた西日本大会へ、東北からの友情出演枠ということで参加をすることができたということです。

6年生15名が、この度ブラスバンドを卒業するわけですが、やはり6年生が抜けた穴は大きいのかなと思いました。でもまた来年になり、新しい3年生も入部する子が出てくるでしょうから、新生ブラスバンドとして、ぜひ来年は上の大会へ進めるよう頑張ってもらいたいなと思いました。

SNSの魅力

フェイスブックやツイッター、ラインなど、彼の国の大統領も多用するほど、メジャーなコミュニケーションツールとなっているようです。子どもたちへの与え方については、かなり慎重に行うべきだと思いますし、きちんと言動に責任がとれる年齢になるまで、必要はないと思います。

先日、東京へ泊を伴う出張に行ってきました。1日目の仕事が終わって、さて、どこで食事をしようかとつぶやいたところ、早速東京に住んで居る教え子から連絡があり、「今日は早く帰宅できるから、新橋でも会いましょう」と連絡が入りました。

ちょうど、片平で4年生の時に教えた子どもです。彼は4年生の終了とともに転校したので、結局はそれっきりで、またその学年を卒業させることもなく、私も転勤になっていました。彼がちょうど就職をする頃に仙台へ来たとき、会うことが出来、それ以来、時々連絡をもらうこともありました。

6月に子どもが産まれるということとその時聞きました。酒を酌み交わしながら昔の思い出話に花を咲かせる、それも自分の教え子と・・・最高の出来事でした。こういう時のSNSはいいツールだなと思いました。

4年生が二分の一成人式を披露しました

授業参観と懇談会の日程に合わせ、4年生が二分の一成人式を行いました。ちょうど10歳になる彼等。全員が将来の夢を述べました。私も挨拶を求められたので、「残りの二分の一は、自分の夢を実現できるように、頑張る期間ですよ」と話し、締めくくりにまど・みちおさんの詩「朝が来ると」を読みました。

その後は、総合的な学習の時間で学んだ「福祉」について、グループ毎に発表しました。